

万行寺寺報

Mangyoji Jihō

発行
浄土真宗本願寺派 万行寺
住職 山崎信充
〒385-0003
長野県佐久市下平尾461-1
電話 0267-67-2460

2025(令和8)年

仏暦2569年

8月号

(第179号)

実践運動 総合テーマ『そとつながる ホッがつたわる～結ぶ絆から、広がるご縁へ～』



住職 法話

劫濁に悩まされる世の中



正信念仏偈に学ぶ
万善自力
円満徳号勸専称
万善の自力、勸修を専らにす。
円満の徳号、専称を勧む。

「現代語訳」
自力の行はいくら修めても劣っているとして、ひとすじにあらゆる功徳をそなえた名号を称えることをお勧めになる。

述べられます。
『高僧和讃』に親鸞さまは

本師道綽大師は
涅槃の広業さしおきて
本願他力をたのみつつ

五濁の群生すすめしむ

(道綽禅師は『涅槃経』の

教えを説くことを止め、阿弥

陀仏の本願他力の教えを疑い

なく信じて自らの道とし、さ

まざまな濁りに満ちた世のす

べての人々に勧めてくださつ

た。
濁世の起悪造罪は

暴風駛雨にことならず

諸仏これらをあはれみて
すすめて浄土に帰せしめり

(さまざまな濁りに満ちた世

で悪事を犯し罪をつくること

は、まるで襲い来る暴風や豪

雨のようである。あらゆる仏

がたはこのようなものを哀れ

んで、浄土の教えに帰依する

ようお勧めになつてゐる。)

乱れていく五つの汚れのこ

とを「五濁」といつて、そ

の中に「劫濁」があります。

時代や社会の汚れ、飢餓や疫

病、動乱や戦争などが多く

なる状態のことです。お釈迦

さまの説かれた『仏説阿弥陀

経』というお経の中にも、

この「劫濁」が出てきます。

お釈迦さまがおられたインド

でも、そして、お釈迦さまが

亡くなられて千年後の中国、

道綽禅師の時代でも、同じ

ようにこの「劫濁」に世の

中は悩まされていたというこ

とです。

そして、今年はお釈迦さま

が亡くなられて二五六九年に

なります。本紙面の右上にあ

る仏歴です。現代はどうでし

ようかと問われると、文明の

発達が目まぐるしく進んだと

しても、この「劫濁」に悩

まされている時代には変わり

ありません。権力をかざして

自分が正しく間違っていない

という思いが強すぎる大国の

首脳もいます。毎日のニュー

スは、そんな「劫濁」にあ

ふれています。

お釈迦さま、七高僧、八百

年前の親鸞さまの時代も同じ

ように「劫濁」に悩まされ

てきました。その背景には、

どなたも時代のせいにはせず、

今を見据えながら時代を嘆き

悲しまれてこられた方ばかり

です。だからこそ、その時代

に合わせた迷いを乗り越えら

れる最善の道を選ばれていか

れたのではないでしようか。

その中で、道綽禅師は自力

という行をいくら修めても

迷いを超えられないと、それ

までの当たり前を破られたの

です。本願他力のお念仏を称

えることをお勧めになったと

いう句になります。当たり前

を破ることが時代を乗り越え

られる術なのでしよう。

仏教語豆事典

一大事

仏がなぜこの世に現れたのか

「殿、天下の一大事！」などというど、天下のご意見番、大久保彦左衛門でも登場しそうな情景ですね。

「わが社の一大事」「大事の前の小事」など、日常でも使われる言葉です。

『法華経』に、「諸仏世尊は、唯一大事の因縁をもっての故に、世に出現したもう」という文があります。お釈迦さまは、ただ一つの偉大な目的と仕事のためにこの世に現れたといひます。

その目的と仕事とは、仏の智慧を凡夫に教え、示し、理解させ、その道に入らしめることである、と説いています。つまり、仏がこの世に現れたのは、衆生を救済するためだといひのです。これが一大事です。

『真宗新事典』によると、仏の一大事とは、「釈迦がこの世に出現された目的は、愚悪の凡夫を救うため、弥陀の本願を説きあらわすこと」であり、衆生の一大事とは「弥陀に救われて浄土に往生すること」と説明しています。

さて、あなたにとって一大事とは、どんなことでしょう。

どうして金持になるのかわからない...

一大事。



一期一会

一生にたった一度の出会い

五月二十一日は、親鸞聖人のお誕生日で、西本願寺では、宗祖降誕会の法要が勤修されます。このとき、国宝の飛雲閣でお茶会が催されます。

一期一会は茶道の言葉です。

「一期」は人が生まれてから死ぬまでの一生、一生涯。「一会」はひとつの宗教的なつどい。ともに仏教語ですが、「一期一会」という成句は仏典にはありません。しかし、仏教の精神を表しています。

一期一会は、千利休の弟子・山上宗二の著『山上宗二記』にある「一期に一度の会」から生まれた言葉です。この言葉を、一流の茶人でもあった幕末の大老・井伊直弼がその著『茶湯一会集』の中で茶の湯の心得として述べました。

それは、「そもそも、茶湯の交會は、一期一会といひて、たとえば幾度おなじ主客交會するとも、今日の会にふたたびかえらざる事を思えば、実に我一世一度の会なり」と記し、一生にたった一度の出会いだから、主人も客も万事に心を配り、実意をもって交わりなさいと諭しています。

諸行無常の世の中、日常生活でも一期一会の心をもって、ご縁を大切にしたいものです。

「くらしの仏教語豆事典」文・辻本敬順 絵・寄藤文平／本願寺出版社より

編集後記

地震、豪雨と災害が頻発しています。◆「こんなこと初めてです」といった声も聞かれるように、災害にも「当たり前」はありません。被災の度に省みて対策をしていくことで、先人たちが乗り越えてきたのでしょうか。仏さまの教えに通ずるものを感じました。



年忌法要表

1 周忌	2025(令和 7)年	23 回忌	2004(平成16)年
3 回忌	2024(令和 6)年	25 回忌	2002(平成14)年
7 回忌	2020(令和 2)年	27 回忌	2000(平成12)年
13 回忌	2014(平成26)年	33 回忌	1994(平成 6)年
17 回忌	2010(平成22)年	50 回忌	1977(昭和52)年